

石巻地域での新型コロナウイルスの回復具体策とその後の方向性(案)

令和 2 年 6 月 2 6 日
宮城県東部地方振興事務所

第一回みやぎ観光振興会議石巻圏域会議における意見を踏まえ、ウィズコロナ期に関心が高まる近郊観光（マイクロツーリズム）需要に石巻地域としていち早く対応するとともに、この機を捉え従前からの課題の域内二次交通や情報発信を改善させ、アフターコロナ期へのステップアップを図るとの方向性に沿い、石巻地域が一体となり実施する具体策やその後の方向性を以下の通り整理するもの。

1 石巻地域の回復具体策の 3 つの類型ごとの実施時期分類による整理

	① 現時点で実施が可能なこと	② 県 6 月補正予算で対応出来ること	③ 県回復戦略への反映などを検討すること
【1】 近郊観光 (マイクロツーリズム)	<ul style="list-style-type: none"> ● 適疎な観光や生活の思想の普及 (専門家による研修会等の開催) ● 感染症の予防や事後対応など安全安心なサービス知識の向上 (専門家による研修会等の開催) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 抽選での地域特産品の提供などによる地域内観光ハインセンティブ付与 (観光宿泊プラン造成支援事業) ● 野蒜築港等の地域の観光資源の掘起しによるシビックプライドの醸成 (観光事業者スタンドアップ支援事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 野蒜築港などの地元の魅力を再発見するための観光資源の面的な整備 ● 半島部や島嶼部などでテレワークやワーケーションを実施する施設及び設備の整備 ● 安全安心に関する学校教育や企業研修などの実施に対する官民連携での支援 ● 県内学校や職場における休暇の分散化推進
【2】 二次交通 (アクセス・トランスポテーション)	<ul style="list-style-type: none"> ● 離島航路の観光マップへの記載 (東部地振作成マップへの記載) 	<ul style="list-style-type: none"> ● JR 主要駅からのバスツアーやホテルからのオプションツアーの実施 (日帰バスツアー特別支援事業) ● タクシーによる周遊ツアーなどの実施 (観光事業者スタンドアップ支援事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 半島部や島嶼部などの交通過疎地でのバス路線やタクシー利用の利便性向上 ● 石巻地域内の主な JR 駅などへのレンタルサイクル施設の整備 ● 石巻地域での複数の航路を乗り継ぎ移動できる仕組みの整備
【3】 情報発信 (デジタル・リアル・インフォメーション)	<ul style="list-style-type: none"> ● 旅中及び旅後の SNS 発信促進 (ハッシュタグなどの共通化、写真投稿キャンペーン実施) ● 旅行ライターへ地域の魅力伝達 (東京での観光記者会見へ参加) ● 県外での物産観光展などの開催 (7月に福島県国見町で開催、東武グループでのイベント) 	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインによる体験ツアーの実施 (観光事業者スタンドアップ支援事業) ● 震災ボランティアスタッフや地縁者などによる石巻地域ファンクラブの設立 (観光事業者スタンドアップ支援事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 半島部や島嶼部など情報過疎地域での無料 Wi-Fi 設備の整備 ● 県内主要観光地(仙台・松島など)からその先へと観光行動を促す情報の一元的な発信 ● 宿泊施設や飲食店などにおける非接触型サービスの導入の促進

※ 中心的な旗振り役： ● 東部地方振興事務所、 ● 石巻圏観光推進機構、 ● 石巻観光協会他 3 市町観光協会

2 県回復戦略への反映などを検討すること（前ページ表中③関連）

（1）近郊観光〔マイクロツーリズム〕

- ① 野蒜築港などの地元の魅力を再発見するための観光資源の面的な整備
⇒認識が高くない地元の魅力の再発見を促進させるため、周辺を整備し誘客を促すと共に、その意義を後世に伝える。
- ② 半島部や離島部などでテレワークやワーケーションを実施する施設及び設備の整備
⇒新型感染症により高まると予想されるワーケーションなどの需要に対し、風光明媚な石巻地域がいち早く対応する。
- ③ 安全安心に関する学校教育や企業研修などの実施に対する官民連携での支援
⇒新型感染症で高まる安全安心の意識に応えるため、大震災の経験を踏まえ地元で活躍する民間団体などと連携する。
- ④ 県内学校や職場における休暇の分散化推進
⇒観光白書 2020 年版で新しい観光スタイルが検討課題とされ、その主要課題である休暇分散化を先駆けて推進する。

（2）二次交通〔アクセス・トランスポート〕

- ⑤ 半島部や離島部などの交通過疎地でのバス路線やタクシー利用の利便性向上
⇒アンケート結果でも指摘され、従来からの課題である二次交通に関し、誘客の促進を図るため利便性を向上させる。
- ⑥ 石巻地域内の主な JR 駅などへのレンタルサイクル施設の整備
⇒石巻地域で力を入れるサイクルツーリズムの誘客強化のため、レンタルサイクル施設を増やし利便性を向上させる。
- ⑦ 石巻地域での複数の航路を乗り継ぎ移動できる仕組みの整備
⇒石巻地域の観光で更なる利用者の増加が期待される離島航路について、移動手段として整備し利便性を向上させる。

（3）情報発信〔デジタル・リアル・インフォメーション〕

- ⑧ 半島部や離島部など情報過疎地域での無料 Wi-Fi 設備の整備
⇒石巻地域は急峻な地形が多く通信環境が悪い所が多いが、観光客がリアルタイムで情報取得できるよう改善を図る。
- ⑨ 県内主要観光地(仙台・松島など)からその先へと観光行動を促す情報の一元的な発信
⇒石巻地域の観光情報取得の困難さがアンケート結果で指摘され、改善のため観光行動を促す情報の発信を強化する。
- ⑩ 宿泊施設や飲食店などにおける非接触型サービスの導入の促進
⇒新型感染症の影響で需要が高まるであろう非接触型サービスに関して、実態を把握したうえで、導入の促進を図る。

3 旗振り役ごとの具体的実施内容の整理（前々ページ表中①②関連）

（1） 東部地方振興事務所が旗振り役となるもの

表中の項目	実施概要	主なプレイヤー	想定経費
●適疎の考え普及	新たな生活様式にも合致すると考えられる「適疎」との考え方を取り入れた旅行や生活などの考えを広く普及するため、講演会等などを開催する。	学者等の観光政策の専門家	講演費等 （既存予算）
●観光マップ記載	観光客利用が見込まれる離島航路や路線バスなどに関する情報を、観光キャンペーン推進協議会三陸部会作成のマップに盛り込み、観光客の利便性を図る。	協議会三陸部会 （東部地振内）	印刷費等 （既存予算）
●地域の魅力伝達	東京で8月に開催される「東北六県物産観光あつ旋機関連絡協議会 定例記者会見」に参加し、石巻地域の魅力を在京の旅行雑誌等のライターに紹介する。	東部地振・ DMO・観光協会	出張費等 （既存予算）
●県外物産観光展	7月に福島県国見町で石巻地域物産観光展を開催するほか、石巻地域の食材や物産や観光などの情報を、東京のアンテナショップやホテルなどで紹介する。	東部地振・ DMO・観光協会	出張費等 （既存予算）

（2） 石巻圏観光機構が旗振り役となるもの

●安全安心の向上	感染症の専門家を講師に、ウィズコロナ期に宿泊・飲食施設で必須となる感染症予防に加え、万が一発生した場合の対応など危機管理の知識を向上させる。	学者等の感染症対策の専門家	講演費 （既存予算）
●SNS発信促進	石巻地域で弱いとされる情報発信の向上のため、特に旅行中や旅行後の観光客の発信を狙い、ハッシュタグの共通化や写真投稿キャンペーンを実施する。	石巻地域内の旅行者	プレゼント費 （既存予算）
●オンライン実施	ウィズコロナ期に需要が高まるであろう観光のオンライン体験の為にコンテンツを作成し、アフターコロナ期での石巻地域観光のゲートウェイ化を狙う。	DMO・コンテンツ作成会社	作成費 （6月補正）
●石巻地域ファン	石巻地域での復興ボランティア経験者や全国の石巻地域を想う方々（石巻地域ファン）の皆さんを、ファンクラブとして組織化し、観光振興の協力を頂く。	DMO	調査費 （6月補正）

（3） 石巻観光協会等3市町観光協会が旗振り役となるもの

●インセンティブ	国のGoToキャンペーン等と連動し、石巻地域内の住民が地域内の宿泊施設等を利用した際に、地域の産品を抽選で提供する等のインセンティブを付与する。	石巻観光協会等・ 3市町観光協会	提供経費 （6月補正）
●観光資源掘起し	マイクロツーリズムで関心が高まるであろう野蒜築港跡をはじめとする地域の歴史等の魅力の再発見を狙い、専門家案内などによる小規模ツアーを実施する。	学芸員等専門家・ 観光協会	ツアー経費 （6月補正）
●バスツアー実施	JR石巻駅から新たな観光施設が出来た牡鹿方面や雄勝方面、JR野蒜駅からオルシの起点である宮戸方面などへの日帰り観光バスツアーの運行を行う。	バス運行会社・ 観光協会	運行経費 （6月補正）
●タクシーで周遊	個人や家族単位での観光客の需要に対応するため、石巻地域内のJR主要駅から身近な観光スポットをタクシーで周遊するツアーの造成を行う。	タクシー会社・ 観光協会	運行経費 （6月補正）

